

# 大垣真宗学院 同窓会

## 同窓会報 第4号

発行日 2011年8月24日  
事務局 岐阜県大垣市伝馬町11  
大垣教務所内  
電話 0584-78-3363  
FAX 0584-78-3353  
郵便局振替口座番号 0830-7-206305

大垣教区同朋会館



### 会長就任のあいさつ



同窓会長 高垣 康平

去る六月十一日、大垣教区同朋会館にて第四回大垣真宗学院同窓会総会が開催されました。

本年は役員改選の年度に当たり、会則第八条に則し、はからずも同窓会長という重責に選任され、未熟ですが役務をお引き受けすることになりました。尚、副会長はじめ十二名の役員についても推薦申し上げたところ、同席上において満場一致で選任がなされました。

後述になりましたが初代会長佐藤義成さんは会費不足のたった一人の願いを尊く受け止められ、直ちに組織の編成に着手し、会員名簿の整理、規約の成文化、会費の徴収を實行し、財務基盤の確立、発会式典、総会、会報の発行等、事業の継続と充実に努め、同窓会を不動のものとなされました。このような数々の事業を三年間の在任期間に見事に成し遂げられ、責任を完全に果たされた御功績は会員みなで認めるものであります。会を代表して御礼と感謝を申し上げます。御功績に学びながら、役員一同、同窓会が更に発展し、歴史となって引き継がれていくことをお誓い申し上げます。

さて、今期は会員の教学の場として、公開セミナーの積極的聴講と学院生の本廟奉仕に同行参加を呼び掛けたいと思います。また、事業においては総会のマンネリ化の監視と会報紙面の豊かさに重点を置きたいと思えます。さらに中長期的には、二〇一三年に迎える同窓会発足五周年をどのようなものにするか計画立案に着手し、整えたいと思います。

そして、規約第四条二「学院発展をたすけるための事業」にそろそろ目を向ける時期が来たのではないかと思います。それに伴う財務の拡大が急務となることから、終身会費の未納会員に対するお願いと、新会員の会員になる啓蒙を強化し、同時に会費納入のお願いをすることを続けたいと思います。

就任早々大風呂敷を広げようですが、学院並びに同窓会に今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

合掌



# 第四回 大垣真宗学院同窓会

開催 二〇一二年六月二日  
総会及び懇親会  
大垣教区同朋会館



藤守博さん（一九九六年卒 高山教区）がアトラクションで熱唱。盛り上がりしました。



「於如意云我からの問いかけ」と題して飯山等先生から講義いただきました。

## 学院同窓会に参加して

雑感



大鹿 英彰  
（一九七二年卒 長浜教区）

大垣真宗学院卒業以来初めて同窓会に参加しました。三年間夏期講座に通った学び舎の唯一思い出出しなのが、一年時のガイダンスで着任の鷹橋先生が



「あなたは七高僧を知っていますか」と質問され、「わかりません」と答えたことが鮮明に蘇りました。四十一年前のことです。皆様とお会いし、真宗学院も伝統が根付いた学び舎と感じました。



私は現在、兼業であった勤めも退職し、所有畑の管理を自らに課したため手を焼いています。母の手伝いを小学生時から行っていたのが幸いし、隣のアドバイスで昨秋から自家菜園を始めました。六月には玉ねぎも人並みに収穫し、今は新鮮なきゅうりが毎日食卓に上がるようになりました。手を休めると雑草が繁茂し、くじけそうになります。自家菜園が中心の生活になってしまいました。のどかな山村地域ですが、近年、空き家が目立ち、老夫婦が亡くなると家屋敷を処分し、また、他に住まいを移し、寺とも縁が切れる家が出てきています。少子

高齢化が進み独居老人世帯が増加の一途です。名古屋市内の寺院も、納骨堂での法要が増え、寺院経営を圧迫していると聞きます。将来の寺院維持が展望できない時代となってきました。無縁社会、閉塞した社会と今後どう向き合おうか。

いままさら、じたばたしてしまうような力むこととはない。自然体で、畑と向き合い生きていけばよいと思っています。

共に学ぶ喜び



栗山 博美  
（二〇一二年卒 名古屋教区）

先日、初めて同窓会に参加させていただきました。今年の三月に卒業して三カ月ぶりの学院でした。総会に引き続き、懇親会では先生方や先輩方と楽しくお話しさせていただき、その雰囲気がとても温かく、また皆さんのエネルギーを感じ、大垣真宗学院の同窓会の一員に仲間入りさせていただいたことをとても嬉しく感じました。初めて同窓会に参加して思ったことは、先生方も先輩方も皆さん一人ひとりがそれぞれに自分のスタイルで頑張ってみえて、生き生きと輝いているということ。ギターを片手に「なんまんだぶつの子守歌」を熱唱された先輩。鷹橋先生とのインド旅行のお話をして下さった先輩方。その中のはとんどの方がインド旅行のリピーターだと聞いて驚きました。元氣いっぱい皆さんに、たくさんたくさんパワーをいただけた同窓会でした。

学院での三年間、私は夜間コースでしたので一週間に一度の授業を受けました。大学生から私の父親



世代の方まで幅広い年齢の皆さんとともに机を並べました。私は、浄土真宗の門徒の家に生まれたのでありませんが、ご縁をいただいで寺族になりました。お寺に入り、浄土真宗に出遇い、親鸞聖人について知りたくなって入学したわけですが、全てのことから初めて私にはやはり大変でした。でも学院に行けば、クラスメイトがいて、先生がみえて、学ぶ場がある。三年間一度も行きたくないと思うことなく楽しく通えたのは、そんな皆さんと一緒にいたからだと感謝しています。学院で「仲間」と出会えたこと、これが何より私にとってかけがえのないことでした。これからも交流を深めて、共に頑張っていく、そんな仲間でありたいです。

三年間はあっという間で、まだまだわからないこと、知りたいこと、考えてみたいことがたくさんあります。普段の生活の中にその時間を取り入れて、少しずつでも聞法場に足を運びたいと思います。

ありがとうございました



和田 恭子  
(一九九三年卒 岐阜教区)

「お母さん、今日は大垣行く日？」  
毎週土曜日が来ると娘が尋ねた。

あれから二十年以上たつ。

大垣で夜間の真宗学院が開設されるということ、仲間三人で入学した。夜間部一期生である。三年間、郡上から通うことは大変だったけれど、月のうちのこの時間だけは私の時間で、とても充実した時を持てたことを思い出す。



入学試験の面接で、あの頃いじめに会い登校できない長女の話をしたら、先生に言われた。  
「娘さんそのものが真宗ですね」と。  
「なんであの子が真宗なの？」「なんで……」「わからない」

大きな問い掛けから始まった学びでした。  
今では四人の娘たちも親になり、私も九人の孫たちから祖母という座をいただいた。二年前には住職・坊守も交代し、またちがう座を生きさせてもらっている。

今、いま瞬間を生きている光を失った九十五歳の母と生活していると、私の往く道を先に歩いてくださっているなと実感する。毎日の生活そのものが真宗だと、今ははっきり言える。

同志会について



三輪 大祐  
(二〇〇七年卒 大垣教区)

今回で第四回目の同志会に参加させていただきました。私たちが卒業した年に発足され、私は第一回

目から参加させていただいております。

真宗学院で私は三年間学びました。その中で得た一番大きいものは知識でもなく、資格でもなく、共に学ぶことができた仲間だと思っています。正直な話、大学に入学した年に真宗学院に入学したもので、それから「めんどくさい」という気持ちがありました。それに寺の行事について、なんで毎年こんなことするのかわからないという風に思っていました。報恩講や永代経など毎年毎年同じことの繰り返し。手伝いを強要されていたようなものでしたから、なおのことです。

そんな中、真宗学院に入学することに決まったのですから、やる気なんて当然ありませんでした。ただ黙々と勉強をしていただけでは、おそらく私は学院を辞めていたと思います。わからないところを教え合うような真面目な関係ではなかったかと思いますが、それでも上山研修などで話をするだけでも大きく学べたと思っています。

卒業してからは同志会で年に一回会うのがとても楽しみです。これからも参加させていただきたく思います。で宜しくお願いいたします。



同窓会案内はがきで皆様からの沢山の返信をいただきました。ありがとうございます。お寄せいただいた近況コメントの一部をご紹介させていただきます。

(順不同、敬称略)

日々忙しく動いています。もう少しゆっくりと暮らしていきたいですね

(井口保明)

毎日手を合わせることにしかできない我が身ですが、幸せを感じながら生活させていただいております

(福川昌成)

ボランティアで託老の料理をしています

(大鹿美宮)

毎日元気で働いております。真宗の教えを教化するのは大変で、まずは自分が真宗の教えと同化しなければいけないと常々思っています。難しいですね

(松永直樹)

先生方やお元気にいらつしやいますでしょうか？お世話になりました時、幼稚園の息子は中学二年生になりました

(井上 都)

来年は必ず出席します

(藤井温之)

今回は都合がつかず欠席ですが、四回も回を重ね、歴史を作ってきたことは素晴らしいことですね。日本は大変なことになっていますが、それぞれ一人できるところを……と思っています

(山崎晋子)

六月の住職修習に向けて日々、頑張っております

(稲垣 敏)

今、いのちについて問われています。私に何が出来るのか、未だに答えが出ていません。無常の説明が出来ず、日々に追われています

(禿子慈孝)

一年に一度皆様にお会いできる日です。七夕までですね。多くの万々とお話しできるのを楽しみにしています

(加納のぶる)

卒業して二十年近く御無沙汰しております。皆様にお目にかかれること楽しみにしております

(森真理子)

懇親会は楽しみにしていましたが、予定が入っており欠席させていただきます。はりやない(残念)です。飯山先生のご講義と皆様にお会い出来ることを楽しみにしております

(千葉和子)

宗祖御遺念に上山させていただきました。とても尊いことに感謝無量でございました。東日本大震災で多くの尊い命が亡くなられたこと、心よりお見舞い申し上げます。現代は心のありどころが見えず、人間関係も希薄化し、殺伐とした昨今です。本当の困難に直面した今、決して負けない、決して自己中心的でない、芯の強さと優しさがあるのが日本人の心であると思います

(田中広美)

真宗学院でいただいたご縁で初めてのインド仏跡への旅を目前にし、落ち着かない日々を暮らしています。T先生の先導でお参りさせていただきます

(渡辺登子)

今年も駐車場係がんばります！

(藤井智孝)

聴聞の道にもとより卒業はない。人生には卒業がないのである。全身心をもって聴聞である

(富田 保)

今回初めて参加させていただきます。残念ながら総会への参加になりますが、私の真宗という歩みとの出遇いの場に再び顔を出すことができることを嬉しく思います

(佐々木真幸)

宗祖御遺念の勤まる今年、土曜夜間コースを卒業しました。そして同窓会に入らせていただき、真宗との深いご縁をいただき感謝しております。私は白衣を着た僧侶として、日々の日常診療の中で真宗人としてあるべき姿を考えながら生かさせてもらっております

(沼口 諭)

毎年この時期になると、真宗学院同窓生で良かったと再認識させていただけます

(武田晃威)

今、デイサービスセンターの利用者の方達と楽しい時間を過ごすことに生きがいを感じています

(栗 恵正)

学院同窓会のお使いからは、いつも元気が溢れていますね。何か背中を押されるようです。有難うございます。その元気の源を尋ね、学びたいと思います。共に歩ませてください

(稲葉常徳)

しばらく家族で上海に住むことになりました

(大迫純子)

相長の任期が終わり、ホッとひとやすみです。本年は三回も上山します

(大谷 肇)

当初、正門入って右側（南側）で授業を受けていました（教務所）。終い頃は本堂の西の間で授業を受けていたのを憶えています。小生今年七十八歳になります。同窓生は誰も？  
（森 大樹）

宗祖御遺忌で本山に参らせていただきました。中村久子展、久方振りに總會所を訪ねました。後期高齢者になり心配していましたが、良きご縁を頂き、有難うございました  
（真道浩子）

会の発展を願っています

（田中秀樹）

いつも「ありがとうございます」という気持ちで生かさせて頂いております  
（三宅薫露）

盛會を！勉強できるようにしたいと思っております  
（田中彰俊）

今年度より土曜夜間コースに長女が通い始めました。三年間の学びの中で、彼女が仏教として真宗の教えとどう出会い、またどのように向き合い、更に我が身の中でいかに取り止めるべきか、傍目で見守っていきたいと思います  
（土井希呂）

南無阿彌陀仏 ガンバロー日本！

（水谷信之）

学院を卒業したのが平成三年三月でした。それから、二十年が過ぎ、無我夢中で過ごしてきました。ご門徒の皆様やいろいろ支えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。永代経、報恩講、同朋会、土曜学校などようやく日取りが定着しましたが、内容はまだまだ考えねばならないことばかりです  
（東山啓子）

●●●二〇一〇年度収支決算報告および二〇一一年度会計予算案の二報告●●●

第四回総会では、左記の内容で二〇一〇年度収支決算報告及び二〇一一年度会計予算案のご承認を頂きました。ありがとうございます。

※卒業生の皆様には本会の趣旨にご賛同頂き、終身会費のご納入を宜しくお願い申し上げます。

10年度収支決算概要

収入	前年度繰越金	1,728,995	
	終身会費	260,000	26人分終身会費
	参加費	103,500	参加者: 組合27名、習熟会20名
	寄付金	80,000	先生方から
	利息	100	
収入計		2,170,595	
支出	会議費	276,715	総会・懇親会費、案内状送付費等
	事業費	78,560	会報誌発行費、大垣真宗学院表札
	事務運営費	44,848	会報誌発送費等
支出計		400,123	
	次年度繰越金	1,770,472	

11年度予算概要

収入	前年度繰越金	1,770,472
	終身会費	200,000
	参加費	150,000
	利息	500
収入計		2,120,972
支出	会議費	245,000
	事業費	35,000
	事務運営費	74,000
支出計		354,000
	次年度繰越金	1,766,972

●●●第五回同窓会のお知らせ●●●

第四回同窓会は、總會ならびに懇親会を大垣教区同朋会館で行いました。多くの皆さまに参加いただき、和やかな、そして親密な時間を過ごすことができました。誠にありがとうございます。

さて、今回の同窓会は二〇一二年の六月九日（土）午後、場所は教区同朋会館を予定しております。詳細は後日ご案内させていただきますが、好評の特別講義など予定しておりますので、ぜひ、お問い合わせをご参加ください。

●●●編集後記●●●

高垣新会長、そして新役員三名を加えて同窓会の新体制はスタートいたしました。気がつくくと来年はもう第五回同窓会の年。会の運営は一年一年手探りでやっていた感もありましたが、ようやく軌道に乗りつつあるように思います。これもひとえに、同窓会員諸氏のご支援と先生方のご指導の賜物だと感謝いたしております。

さて、今回の同窓会懇親会の冒頭、鷹橋賢由先生から、毎回道路はるばるお越しくくださった二宮崇さん（二〇〇〇年卒、日豊教区）が選浄されたこと、知らされました。お便りには、同窓会総会を心待ちにして療養しておられたとのこと。おいしい地元の焼酎を差し入れ、飲み方まで教えてくださったお姿が誠に浮かびます。

また 来年お会いしましょう！

これから、より充実した同窓会活動を通じて、自  
信教人信の誠を  
尽くさんがため  
の歩みを踏み出  
してまいりたい  
と役員一同、心  
新たにしております。  
宜しくお  
願いいたします。

